



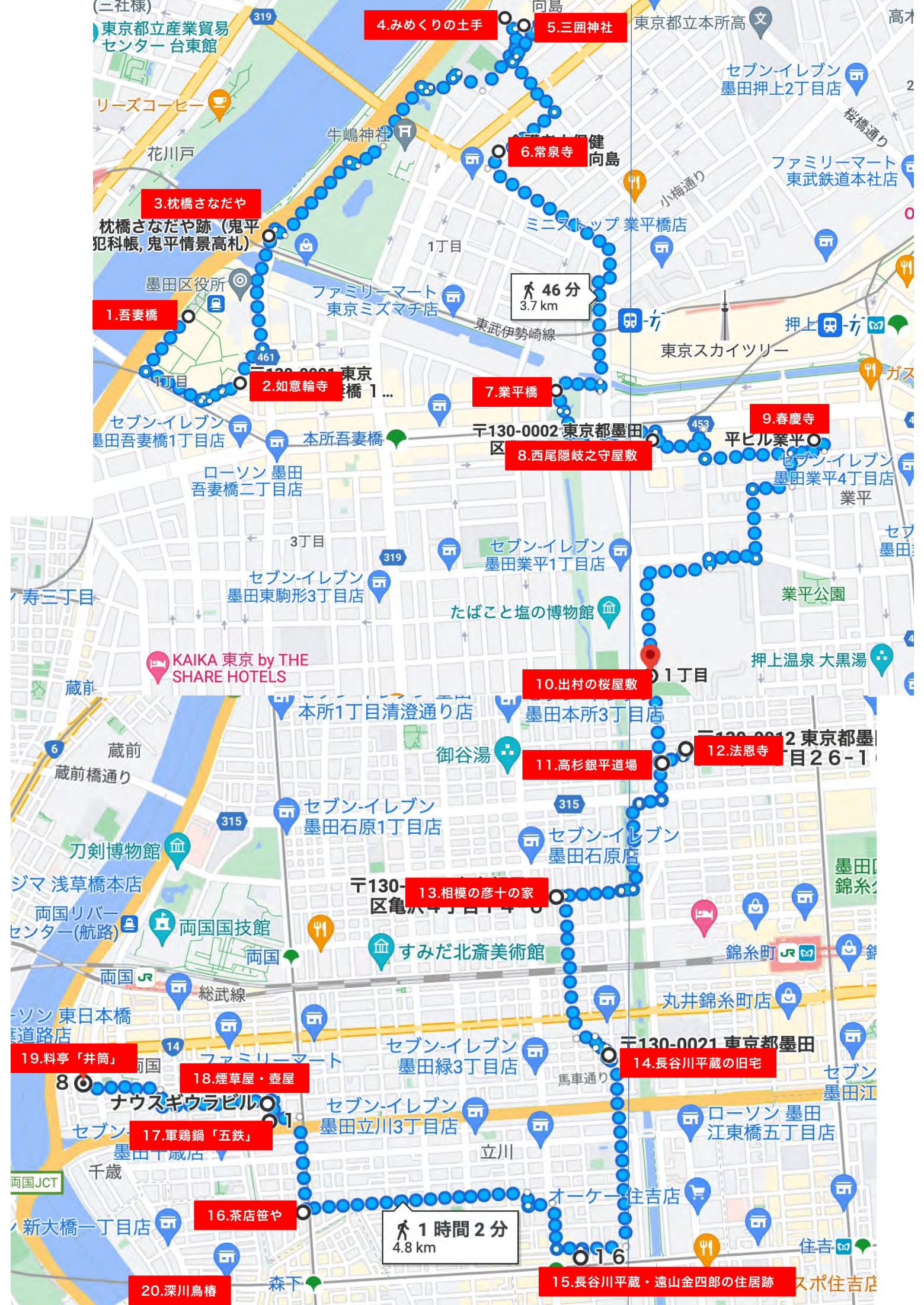
KANABIあ・そ・び・隊／令和5年3月ウオーキング企画（002黒澤）

生誕100年／池波正太郎

『鬼平犯科帳』の舞台を歩く！」

先月の池上隊長の復活リアル「はしご酒」ウオークは最高に楽しかったですね。引き続いての2023年のリアルウオーク第二弾は、今年生誕100年を迎えた池波正太郎（1923年～1990年）の代表作「鬼平犯科帳」の舞台（19の高札）を歩いて巡る時代物です。

昼過ぎに大川（隅田川）アサヒビール本社集合し、ゆるゆると打ち上げ場所の「深川／鳥椿」までの約12kmを3時間前後で歩くという緩いウオーキング。フルってご参加ください。



(三社様)
東京都立産業貿易センター台東館

4.みめくりの土手

5.三田神社

東京都立本所高
セブン-イレブン 墨田押上2丁目店

3.枕橋さなだや
枕橋さなだや跡 (鬼平犯科帳, 鬼平情景高札)

6.常泉寺

ファミリーマート 東武鉄道本社店

1.吾妻橋

2.如意輪寺

7.業平橋

9.春慶寺

8.西尾隠岐之守屋敷

ファミリーマート 東京ミズマチ店

東京スカイツリー

ローソン 墨田 吾妻橋二丁目店

〒130-0002 東京都墨田区

ファミリーマート 墨田業平4丁目店

セブン-イレブン 墨田東駒形3丁目店

セブン-イレブン 墨田業平1丁目店

業平公園

KAIKA 東京 by THE SHARE HOTELS

10.出村の桜屋敷

〒130-0012 東京都墨田区目26-1

蔵前

本所1丁目清澄通り店

墨田本所3丁目店

11.高杉銀平道場

12.法恩寺

刀剣博物館

セブン-イレブン 墨田石原1丁目店

セブン-イレブン 墨田石原店

13.相模の彦十の家

すみだ北斎美術館

錦糸町

ジマ 浅草橋本店

両国国技館

両国

丸井錦糸町店

両国 JR

総武線

〒130-0021 東京都墨田区

ローソン 東日本橋 墨田道路店

ファミリーマート

セブン-イレブン 墨田緑3丁目店

18.煙草屋・壺屋

ナウスギウラビル

セブン-イレブン 墨田立川3丁目店

セブン-イレブン 墨田千歳店

17.軍鶏鍋「五鉄」

16.茶店笹や

オーケー 住吉店

新大橋一丁目店

1時間2分
4.8 km

20.深川鳥椿

15.長谷川平蔵・遠山金四郎の住居跡

スポ住吉店

13時集合

1. 【吾妻橋】

吾妻橋のたもとの「鬼平情景」高札の表題は「吾妻橋（大川橋）」。安永3（1774）年、江戸時代明和の大火後に架けられた橋。当時は大川橋と呼ばれ、小説の中でもたびたび登場します。大川は隅田川の旧名です。吾妻橋と改名されたのは明治になってからのことです。現在の橋は震災復興橋梁として昭和6（1931）年に架橋されました。



4分 (350m)

2. 【如意輪寺】

「吾妻橋」の高札から墨田区役所方面へ歩くこと約3分。「如意輪寺（にょいりんじ）」の高札に着きます。ここは平安時代に歴史が始まる古刹。門前には盗賊たちの「盗人宿」があり、『鬼平犯科帳』の密偵・大滝の五郎蔵もここを宿にしていました。嘉祥2（849）年、慈覚大師が聖徳太子自作の太子像を安置したことに始まると伝わる天台宗の古刹。第4巻の「敵」では、寺の前の花屋が盗人宿となっています。



7分 (500m)

3. 【枕橋さなだや】

「如意輪寺」から墨田区役所前を北へ徒歩約7分で、「枕橋さなだや」の高札へ。枕橋は北十間川に架かっていて、高札は橋の少し先、すみだリバーウォーク入口の隣に立っています。2020年6月、東武スカイツリーラインの鉄橋沿いにできたこの歩道橋は、鉄道高架下に店が並ぶ東京ミズマチとともに墨田区の新たな名所となっています。この「さなだや」というのは、そば屋です。「鬼平」番外編の『正月四日の客』（『にっぽん怪盗伝』収録。角川文庫）は、この店が年初めに店を開ける毎年正月4日に「舌がひんまがるような」辛い汁のそば「さなだそば」を出すことから話が始まります。そんなそばなので客は来ないのですが、ある一人の客だけは喜んでそのそばを味わう。亭主はなぜそんなそばを正月4日に出すのか？ 喜んで食べる客の正体は？ やがて店名の由来もわかるのですが、この物語そのものもかなり“辛口”な展開となっています。「蛇の眼」で平蔵の勘が、蛇の平十郎の去っていく姿に「あやしい奴」と感じた場所で、当時は源兵衛橋と呼ばれていました。



4分 (290m)

4. 【みめぐりの土手】

訪ねた頃は、まだまだ桜が見頃だった隅田川の堤を川上方向へ。随所に解説版が設置されていて、江戸時代から桜の名所だったことがうかがえます。「枕橋 さなだや」から約10分で、「みめぐりの土手」の高札に到着。「大川の隠居」に登場します。大川（隅田川）の土手のうち三囲神社の鳥居の貫から上が川面から見える辺りを指したようです。江戸時代、大川には対岸の浅草を含め料亭や船宿が多く、『鬼平犯科帳』にもこのあたりの風景はしばしば登場します。



9分 (650m)

5. 【三囲神社】

ここから土手を下りて約2分歩くと、「三囲神社（三囲稲荷社）」の高札が掲げられた三囲（みめぐり）神社の前へ着きます。今の三越の前身となる三井家（越後屋）が江戸進出のときに三囲の名にあやかって守護神とした神社です。境内には、旧三越池袋店のライオン像が移設されています。鬼平犯科帳をはじめ、剣客商売などでもおなじみの寺。鬼平「迷路」では、玉村の弥吉が妙法寺の九十郎と出会い、盗みに誘われる舞台となっています。



5分 (400m)

6. 【常泉寺】

三囲神社から水戸街道を渡って約3分。街道から1本入った通りに「常泉寺」の高札があります。1596（慶長元）年に開基されたこの日蓮正宗寺院の寺域は広大でしたが、現在は区画整理され大幅に狭くなりました。高札のすぐ先が言問通りで、常泉寺の現在の入口はこの通り沿いにあります。鬼平犯科帳の番外編「正月四日の客」で前砂の甚七が寺男になりすましていた寺で、江戸の儒学者・朝川善庵の墓があります。



7分 (550m)

7. 【業平橋】

次の「業平（なりひら）橋」までは徒歩約12分。途中、東武スカイツリーラインの高架下は東京ミズマチで北十間川沿いにしゃれたカフェやショップが並びます。「業平橋」は浅草通りの業平橋の下、大横川親水公園の一角に立っています。さまざまな遊具もあり、親子連れでにぎわっていました。スカイツリーが丸い鏡に映るオブジェもあります。「敵」の中で、大滝の五郎蔵が橋を渡ったところで尾行されていると感じ、すばやく西尾隠岐守下屋敷わきの木立に身を隠す場面で登場します。



3分 (200m)

8. 【西尾隠岐守屋敷】

浅草通りを約5分歩くと現れるのが、「みりん堂」というせんべい屋さん。店の脇には「西尾隠岐守屋敷」の高札があり、遠江国横須賀藩3万5千石の西尾家下屋敷がありました。このあたりは夜になると賭場や盗人宿への経路となっていたことが記されて、夜になると下屋敷は博奕場へと変わり、すねにきずを持つ者が身を隠す場所として作品に登場します。「みりん堂」の名物は「ぬれせん」や「相撲煎餅」ですが、やはり味わってみたいのは「平蔵煎餅」（648円、税込）。平蔵などがプリントされたせんべいのほか、本所（現在の墨田区南西部）界隈の切り絵図も入っていて好評です。



3分 (220m)

9. 【春慶寺】

「みりん堂」から浅草通りを東へ約7分歩くと、春慶寺というお寺が見えてきます。ただし、寺といっても周囲の建物と同じようなビル。この前にも「鬼平情景」の高札があります。長谷川平蔵の親友、岸井左馬之助（さまのすけ）の寄宿先として多くの作品に登場します。左馬之助をドラマで演じた江守徹が揮毫した石碑が立つほか（第5シリーズから演じたのは竜雷太）、『東海道四谷怪談』などの作者である鶴屋南北の墓もあります。平蔵の剣友、岸井左馬之助の寄宿先として多くの作品に登場します。なかでも「明神の次郎吉」は春慶寺が主な舞台になっており、寺域や押上周辺の当時の様子が描かれています。



9分 (700m)

10. 【出村の桜屋敷】

「春慶寺」から次の「出村の桜屋敷」の高札までは少し距離があり、25分ほど歩きます。「みりん堂」方面へ戻り、タワービュー通りを南下するのがおすすめ。スカイツリーと錦糸町を結ぶ約1.2kmの通りで2014年に整備されました。スカイツリーを背にして歩くと、左手に業平小学校が建っています。王貞治さんが卒業した学校です。春日通りを越えた先で右折し、大横川親水公園に架かる紅葉橋のもとにあるのが「出村（でむら）の桜屋敷」の高札。平蔵と左馬之助は田坂直右衛門の孫娘・おふさに想いを寄せていました。横川に行く、おふさの嫁入り舟を平蔵と左馬之助が万感の思いで見送る場面は心に残ります。



7分 (550m)

11. 【高杉銀平道場】

5分ほどのところには「高杉銀平道場」、そのすぐ先には「法恩寺」の高札があり、長谷川平蔵と岸井左馬之助が青春時代を過ごした場所として作品に登場します。平蔵は19歳のとき、一刀流の剣客・高杉銀平の道場入門。稽古に打ち込み、それまでの放蕩生活から剣の道へと進みます。道場で無二の親友となったのが岸井左馬之助でした。まだまだ悪さをする悪友でしたが、そんな二人が少年のようにはにかんでしまった相手のおふさはやがて横川から舟に乗って嫁入りしてしまい、二人はただ見送るだけでした。それから20年、この地を訪ねた平蔵は偶然、左馬之助と再会します。道場での青春の日々、そしてふさのことを思い起こす二人でしたが、ふさの境遇は予想もしない状況に。平蔵が探っていた事件とも関わっていることが明らかとなり、運命の残酷さに二人は言葉を失うのでした。小説では第1巻、ドラマでは第1シリーズ2話『本所・桜屋敷』の物語です。



1分 (99m)

12. 【法恩寺】

太田道灌ゆかりの寺で、「本所・桜屋敷」では平蔵と左馬之助が門前の茶店「ひしや」で20余年ぶりに旧交を温める場面に登場。「尻毛の長右衛門」は、この法恩寺から物語が始まります。



10分 (800m)

13. 【相模の彦十の家】

「高杉銀平道場」から南下し大横川親水公園を渡り、徒歩約15分。「亀沢四丁目こども広場」という小さな公園の一角に立つのが「相模の彦十の家」の高札です。彦十は本所松井町の「岡場所」に美食う香具師あがりの無頼者。若かりし平蔵が、放蕩無頼の暮らしを送っていた頃からの取り巻きの1人です。密偵に転じると、その働きは目を見張るものがありました。平蔵が鉄三郎（てつさぶろう）と呼ばれていた若かりし頃からつき合いのある無頼者で、その後密偵になったのが相模の彦十。ときどき平蔵のことを「てっつあん」と気安く呼んでしまうことも。テレビシリーズでは江戸家猫八が演じて、いい味を出していました。



8分 (600m)

14. 【長谷川平蔵の旧邸】

ここからさらに徒歩約10分ほど、総武線の線路と京葉道路の間に「長谷川平蔵の旧邸」の高札が立っています。27歳まで暮らした屋敷があったとされる場所です。平蔵の父・宣雄（のぶお）も火付盗賊改方長官でしたが、平蔵27歳の時に京都町奉行所に栄転、平蔵も一緒に京都へ移り住んだのでした。しかし、わずか1年ほどで宣雄は客死（かくし）。平蔵は家督を継ぎ、江戸へ戻ってくることとなります。この旧邸に暮らしていた時代、平蔵は放蕩無頼の青春を送っていたのでした。「鬼平」こと平蔵が27歳のときまで暮らしていた屋敷のあった場所です。実父の宣雄が目黒行人坂の下手人を捕らえた手柄により京都町奉行に出世し、長谷川家はこの地を去りました。



9分 (750m)

15. 【長谷川平蔵・遠山金四郎住居跡】

長谷川平蔵は明和元年（1764）父の屋敷替えによって築地からこの地に移り住みました。天明6年（1786）、父同様御先手弓頭に昇進して火付盗賊改役につき、8年間の在職中に石川島の人足寄場を創設したり、多くの犯罪者を更生させたことは有名です。当時の敷地面積は1,238坪（4,085）におよんだと言われています。そこに40年後には、ドラマや芝居で広く知られる「遠山の金さん」こと「北町奉行遠山金四郎」が屋敷を構えました。屋敷の西端にあたる都営地下鉄新宿線菊川駅の入口に史跡説明板が、東端にあたる歯科医院前に斬新な形の記念碑が建っています。



13分 (1000m)

16. 【茶店『笹や』】

堅川を渡り、清澄通りを8分ほど進むと、「茶店笹や」の高札があります。弥勒寺の門前にあり、平蔵が放蕩無類の日々を送り「本所の鍔」と呼ばれていた頃をよく知るお熊婆さんのお店。火盗改の長官になってからは出先のような役割を担い、多くの作品に登場します。70歳を超えた元気なお婆さんですが、40代(?)の頃には平蔵の寝床にもぐりこんで逃げ出されたというエピソードも。男勝りな反面、シャイで純粋なところもあるお熊お婆さん、平蔵の片腕となるたのもしい一面もあり、火盗改の長官になってからは出先のような役割を担い、多くの作品に登場します。



5分 (400m)

17. 【軍鶏なべ屋『五鉄』】

歩いて4分ほど、首都高速7号線の下を流れる堅川のほとりにあったのは「軍鶏(しゃも)なべ屋『五鉄』」。平蔵行きつけの店で、密偵たちともよく集まっています。みんなであっついている軍鶏鍋は本当にうまそう。池波正太郎はグルメとしても知られ、食についてのエッセイも数多く残しています。そちらのジャンルで親しんでいる人は多いかもしれません。『鬼平犯科帳』のみならず、さりげなくおいしそうな料理が登場するのも、池波作品の大きな魅力のひとつです。



1分 (82m)

19. 【煙草屋・壺屋】

「長谷川平蔵の旧邸」の先、首都高速7号線と平行に走る馬車通りを隅田川方面へ20分弱歩きます。清澄通りを渡って少し先にある普通のビルの入り口横に立っているのが「煙草屋・壺屋」の高札。「如意輪寺」の高札のところで触れた大滝の五郎蔵という密偵が営んでいた店で、密偵たちの拠点ともいえる場所でした。大盗・蓑火の喜之助の下で修行した盗賊・大滝の五郎蔵は捕縛された後、密偵となり、義父・舟形の宗平とこの店を始めました。後に夫婦となった女密偵のおまさも同居。多くの作品に登場します。



8分 (600m)

19. 【料亭『井筒』】

『鬼平犯科帳』に登場する料亭で、一之橋周辺にあったとされています。主人の羽沢の嘉兵衛は、裏の世界では香具師の元締め。鬼平の暗殺を画策するなど、鬼平の手を焼かせました。

17分 (1300m)



【打ち上げ会場「深川／鳥椿」】

